

2012年巻頭言



支部長

鹿島建設(株) 尾宮 洋一

今年辰年です。干支の中では唯一想像上の動物で、正義感と信頼を象徴するのが辰とされています。構造設計者と同じですね(^^)。皆様は、どんな年になると期待されていますか。

昨年は、東日本大震災後が3月に発生し、地震・津波・原発事故の3連動の余波で、政治・経済を始め我々建設業界にも大きな影響を及ぼした年だったと思います。

昨年JSCA九州支部では、沈滞する建設界や構造設計業務の状況ではありますが、研鑽の時期と考え、多くのセミナーや勉強会を各技術委員会を主体に開催してきました。福岡県では、福岡建築倶楽部（建築関連7団体）共催での東日本大震災に関するセミナーを9月に開催し、構造関連団体に留めず広く関連団体との連携を強めてきました。そのもうひとつの成果として、JSCA九州支部他6団体との連名による福岡県における構造計算適合判定機関複数化の要望書を、12月20日福岡県建築都市部、小路部長へお渡し、複数化および現適判機関の改善を検討するとのコメントを頂きました。とかく建築設計の陰に隠れがちな構造設計者ではありますが、建物の安全・安心の責任を担う先鋒として、設計のみならず行政に対しても行動を起こせる体力とJSCAに対する周囲の認知が備わってきたとつくづく感じました。これらも、会員一人ひとりの日ごろの努力の成果だと考えます。

九州各県におきましても、設計技術の啓蒙・向上として、講習会等の開催をお願いしています。長崎では、本年6月建築構造展を開催する予定で動き出しており、活発な活動をする地区への応援を出来るだけ実施したいと考えます。また、青年部やなでしこ会の活動は、年ごとにたくましくなり、JSCA 会員であるなしを問わず将来の構造設計者のネットワークを築くべく、今年も広く九州一円での活動を期待します。

九州支部は、若手の活動だけではなく、技術委員会をはじめ各委員会では、見学会・講習会・他団体との交流会と活発な活動を行っています。今年も支部会員の増強を進めながら、会員各自が問題意識を持って、それを解決する場として、自主的に利用していただきたいと考えます。

会員のみならず、体には気をつけて、実りある1年を過ごしてください。



新年を迎えて



副支部長

(株)JE 構造設計 上瀧 邦宏

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

「一年の計は元旦にあり」と諺に有りますが、昨年の激動を考えた時に、私を含めて大部分の皆様もまだ、目標の方向性すら見えずにおられるのではないのでしょうか。振り返りますと、国内では新燃岳の爆発で始まり、東北大震災、原発の爆発とその後の処理の不手際、超円高、3度目の首相交代、電力不足、何の法律も決められない国会、大手企業の不始末騒ぎと、数え切れない負の出来事が頭に浮かびます。しかしその中で「なでしこジャパン」の世界制覇は、まさにすさんだ心を和ませてくれました。海外では、中東のひまわり革命、ヨーロッパの金融問題、中国とインドの台頭と、今年も安定とは程遠い状態です。自由主義経済は勝ち組(国)と負け組(国)を作ります。一昔前と違い、日本の将来を考えると時に国際社会の一員としての日本の形をまず決めなければ何も進まない状況ですが、私は個人的には「経済大国を捨て、日本人本来の器用さを生かした職人(技術屋)の国を目指すことが良いのでは」と考えております。そのために今年も「若手の育成」に力を入れる気持ちは昨年と同じです。九州道独立大賛成。さー。今年も頑張るか!



副支部長

(有)福岡構造 宮田 俊英

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご健勝の事とお慶び申し上げます。昨年は、色々なことが起き大変な年でしたが、漢字でも示された様に絆を強く感じた年でもありました。

昨年は、福岡県に対して法適合性判定機関を実質上の2機関として欲しいとの要望を提出し、今年は何かしら前向きな動きが出てきそうな雰囲気がありますが、県行政に期待するばかりです。福岡県法適合性判定が私たち構造実務者に対して過度の指導が行なわれていることを強く認識して頂きたいと思っています。

リーマンショックから立ち直りかけたと思ったら、ギリシャ危機が出て来て、さらに円高が強烈に進み景気が回復する見込みが見えません。ソフトバンク・ホークスの日本一により、九州は経済効果が数百億円あったと聞きますが、我々の所には殆んど廻ってきていないように思います。世間の寒風に負けず頑張っていかなければと思います。

心身ともに引き締め、品質の維持・向上を目指しつつ、会員皆様の更なる発展を祈念いたします。

(前ページより続く)

これに対して支部技術委員会として、審査基準について何度か適判機関と協議を進めて参りましたが一向に進展しなかったのが現状です。

最近、福岡在住の支部会員の若手技術者を含め、構造設計者が困惑あるいは疲弊している現実があり、技術委員会としてはこれを看過する訳に行かないと対策を考えておりました。

そこで、福岡適判に対する判定方針の緩和の御願いはさておいて、会員皆様の希望もあり、最低もう一つの判定機関を認めてもらえることで、審査基準を平準化する効果を期待して、福岡県に対し、適判機関増の要望書を提出したところです。

結果については詳細が分かり次第、ホームページ等で皆様にお知らせする予定です。

さて、今年は新年早々より構造設計一級建築士の1回目の指定講習会があり、早々から皆様におかれては忙しい一年の始まりです。今年も頑張りましょう。

コンクリート系部会



コンクリート系部会部会長

欄竹中工務店

大塚 真裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年は3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、多くの方が犠牲となりました。その多くは津波による被害であり、今なお復興の全体像が見えておりません。また、原子力発電所の被害についても収束の糸口が明確になっているとは言いきれません。いずれも、想定を超える高さの津波に対する対策ができていなかったことも原因となっています。一方、建築物の構造体に対する被害はそれほど多くはなく、被害が目立った建物は旧耐震設計の建物であり、新耐震設計法による性能は発揮されたと思います。また、地震が長い時間続いたこともあり、非構造部材の被害が目立った地震でもありました。さて、我々がよりどころとしている現在の耐震設計法は、たかだか100年の歴史しかありません。地球の長い歴史からすればほんの極々わずかな歴史であり、過去の経験をもとに定めた基準に過ぎません。このようなことを真摯に考え、基準は万全ではなく、想定外の外力や被害も必ずあることを念頭におき設計を行う必要があります。その反面、設計者は常に経済性を考慮し、過度な設計を行うことなく限りある資源を有効に活用した設計を行う必要もあります。想定を超えた場合でも、少なくとも人命を損傷させるような被害は起こさせないように創り込む、そのような創造性を発揮する設計者であるべきであり、JSCAはそのような構造設計者の集団でなければならないと考えます。

今年も会員各位のご支援を宜しくお願い致します。

地盤系部会



地盤系部会部会長

清水建設㈱ 佐守 康司

新年明けましておめでとうございます。昨年は、東日本大震災という構造設計に携わる者にとりまして非常に厳しい年でありました。本年が皆様にとって良い年でありますよう例年に以上に祈念させていただきます。

昨年は JSCA 九州支部地盤系部会として3回のワーキンググループ勉強会と、講習会を3回開催し、活発な部会活動ができたのではないかと考えております。特に講習会では、7月の「地盤改良講習会」、10月の東京理科大学名誉教授：井口先生を特別講師として開催した「建物と地盤の動的相互作用」勉強会、11月の「既製杭の設計施工勉強会」と3回の講習会・勉強会を開催する事が出来、いずれの会も100名近くのご参加を得ました。この会の開催にあたり、ご協力いただいた関係の方々はこの場をお借りして御礼申し上げます。また、講習会の内容がご参加いただいた皆様の平素の業務の一助となることを願っております。平成24年も地盤系部会として、より実務に即した勉強会を積極的に継続していきたいと考えております。

最後に JSCA 会員の皆様のより一層のご活躍とご健康をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

設計基準系部会



設計基準系部会部会長

㈱大林組 伊藤 義弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は3月11日に発生した東日本大震災等1年を通して国内外で大きな自然災害が発生し、自然の脅威を改めて痛感させられた年でした。また、平成20年に施行された新建築士法の規定により3年毎の定期講習会が昨年末より実施されおり、構造設計者として日々の研鑽がますます重要となっております。

昨年度は会員の技能研鑽・技術力向上のための講習会として、8月に鉄鋼連盟九州地区サブネットワークの設計式勉強会、10月には構造設計一級建築士修了考査直前のスキルアップセミナーを開催しました。

本年度は、昨年と同様に鉄鋼連盟九州地区サブネットワークの設計式勉強会、スキルアップセミナー等、会員皆様の構造設計者としての技術力研鑽、スキルアップの場を提供していきたいと考えております。

今後のご要望も含めて、会員皆様のご協力をお願い致します。

鉄骨系部会



鉄骨系部会部会長

大成建設㈱ 金子 文彦

鉄骨系部会におきましては、昨年十分な活動が出来ないまま終わらせてしまいました。今年は昨年の反省を踏まえて活動したいと考えています。今年の鉄骨系部会のテーマとして「若手のレベルアップ」を考えており、これに伴った講習会を2ヶ月ごとに開くことを企画しています。鉄の性状・溶接材料・検査方法などの、ごく基本的な内容を考えています。

いつも問題となる鉄骨部材の流通に関しても、各メーカーに対して九州での状況をヒアリングしつつあります。あと若手の構造設計者からの要望を吸い上げて、それぞれの講習会に反映していきたいと考えています。宜しくお願い致します。

木質系部会



木質系部会部会長

川崎建築構造設計事務所 川崎 薫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、3月11日の東北地方太平洋沖地震に加え、津波や原発事故と天災・人災が同時に発生し、東日本一帯に甚大な被害をもたらしました。九州の方は、その影響は少なかったのですが建築構造にたずさわる者として、常に最新の技術を勉強し、設計に生かしていけなくてはならない事を実感しました。

木質系部会は、昨年2冊目の許容応力度設計の勉強会が終了しました。今年は2月に新年会を企画し、その後は月1回のペースでリクエストの多い内容を集中的に勉強していきます。この勉強会の特徴として、参加者はJSCA会員ばかりではなく、会員外の方も自由に参加出来る事です。専門職種に関わらず、多くの方に木造設計の基本を学んでいただこうとの意図ですが、実際には参加されてる意匠設計、工務店等の方々から逆に多くの事をこちらが学んでいます。

これからもJSCA九州木質部会から木造設計について多くのことを発信していこうと思います。是非皆様のご協力をお願い致します。

特殊（PC）系部会



特殊(PC)系部会部会長

オリエンタル白石(株) 内山 執樹

明けましておめでとうございます。当部会の活動目的は、プレストレストコンクリート（PC）構造に関わる建築物やプレストレス力を利用した最新の工法などの情報をいち早く会員の皆様や行政に関わる方々、一般市民の方々に提供し、より良い社会資本の

形成に役立つことにあります。そしてこの部会活動を通してプレストレストコンクリート構造のより一層の普及をめざすものであります。本年も特殊（PC系）部会を宜しくお願い申し上げます。

さて、当部会では昨年6月29日に熊本市においてプレキャストプレストレストコンクリート造による新築の体育館の現場見学会を行いました。なかなかプレストレスを使って設計するような建物がないとのことで、今年度はこれ一件の見学会になりそうです。2012年もPCの良さを視覚的に体験していただく為、できるだけ現場見学会を開催していきたいと思っております。日本建築センター「プレストレストコンクリート造設計施工指針」の改定版も発刊され、その中身も設計者の皆様にも十分熟知され、プレストレストコンクリート造でも問題なく確認申請も通っているようです。建築学会よりPC性能設計指針も発刊される予定です。そのときは時間を作って勉強会を開催したいと思っております。是非出席していただきプレストレストコンクリート構造への理解をより一層深めていただきたいと思いますと思っております。

耐震改修促進委員会



耐震改修促進委員会会長

(有)ストリームデザイン 原 英基

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の大震災は自然の力、人の力、そして人の営みについて深く問われた出来事でした。新年を迎えるにあたり、構造技術者として後世に恥じない信念を持って復興の一助となるべく努力する決意を新たにしているところです。

耐震改修の分野においては学校建築物等公共施設の診断の大半は終了しました。今後は共同住宅、人の集まる施設、拠点となる生産施設、緊急避難経路に面する施設等の診断・改修へと進んでいくものと考えています。診断技術・改修技術ともにこれまで以上に幅広い対応が要求されます。委員会はこれらの問題に率先して取り組んでいきたいと思っております。皆様のご協力、よろしく申し上げます。

青年部会



青年部会部会長

(株)日本設計 今林 光秀

あけましておめでとうございます。昨年は、熊本や沖縄への見学会や他団体（鉄構工業会、圧接業協同組合）青年部との技術交流会、および様々な勉強会など、例年と同様に実り多い活動をしてきました。さらに、10月のJSCA構造デザイン発表会においては青年部から若手2名が立派に発表してきました。おかげさまでメンバーも毎年増えており、当初の目的である「若手のネットワーク作り」と「構造の楽しさ共有」が、少しずつではありますが着実に実を結びつつあるようです。今年も引き続き明るく楽しく活動して行きますが、今年からはこれまでも増して、メンバーの若手から自発的に活動を企画・立案していただき、より活気ある青年部として飛躍する1年としたいと思っています。さらに、大阪で行われる予定のJSCA構造デザイン発表会2012に、今年も青年部から発表者を出したいと思っています。皆様、今年もよろしく願いいたします。

なでしこ会



なでしこ会部会長

清水建設(株) 浅田 正子

新しい年の初め、新年を喜ぶより心の引き締まる思いをして迎えられた方も多いと思います。震災からの復興はこれからという今年、何かの力になれるよう、自分のできることを幅を広げていければと思っています。

昨年、サッカーの“なでしこ JAPAN”は日本中に勇気を与えてくれました。それを受けてか、JSCA九州なでしこ会も昨年1年間継続して活動を行い、少しずつではありますが、輪が広がりつつあるのではないかという気がしています。JSCA九州内部のみならず、多くの方々に支えて頂いたからこそ続けることができたと思います。そんな皆様に感謝しつつ、男女同権の世の中で、敢えて女性が集うことで何ができるのかを前向きに考えながら、今年も1年活動を続けていこうと思います。

今年の大きな目標として、なでしこ会の会員を増やしていきたいと思っています。JSCAの会員・非会員を問いませんので、周囲の女性をなでしこ会へ快く送り出して頂きますようお願い致します。

本年も、なでしこ会をよろしく願いいたします。

地区会報告

北九州地区会



北九州地区会幹事

（株）大建設 高嶮 千年

平成24年の新春を迎え謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、北九州地区会の活動に多大なご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、3月11日に発生した未曾有の東日本大震災、津波による福島第一原発事故及び9月初めの紀伊半島の台風12号による大水害等、全国的に災害の多い年で日本経済に大きな衝撃を与えました。政治的にも政権交代から2年経て3人目の総理大臣となった野田政権は、多くの政治課題に直面して有効な対策も打てず景気の先行き不透明感が漂っています。その様な中、復旧、復興に向けて新しい国造りに全国民挙げての取り組みが本年復興元年としてスタートしました。建築関係に携わる者として明るい展望が開ける年となること期待を致します。

その為には、私たち建築構造士が手を拱いているのではなく身近な地域で専門性を発揮して安全・安心に暮らせる都市造りに積極的に貢献し、豊かな社会の実現に寄与していくことが重要な使命であると考えます。幸い、北九州市では耐震対策に力をいれ民間建築物耐震化補助金制度が拡充されましたで、会員相互の連携を密みして技術の向上を図り、より耐震対策に取り組みたいと決意を新たにす次第です。

ご関係の皆様には、一層のご指導とご支援をお願い申し上げますと共に皆様の益々のご発展を祈念いたします。

佐賀地区会



佐賀地区会幹事

江口建築設計事務所 江口 達実

昨年は、今まで経験したことのない事象が数多く発生した年でした。そして予測できた未来が少し早く来たかのようにも感じています。その中で、今後起こり得るであろう事象に対し、微力ながら行動していく思いを強くした1年でもありました。

佐賀地区会ではJSCA会員15名に加え、佐賀県構造家連絡会のメンバーと連携して、講習会の開催並びに各団体への講師派遣などを行ってまいりました。そして、一昨年前より計画していた、若手育成のための研修会に予想以上の参加者を得て「建築技術者構造研修会」を開催できたことに満足しております。

主な活動内容は下記のとおりです。

- ①佐賀県建築士事務所協会へ委員派遣（5名）
- ②同 耐震強度検討部会委員派遣（3名）
- ③佐賀地区会総会（6月）
- ④電炉鋼材勉強会（6月）
- ⑤建築技術者構造研修会（7月）
- ⑥鉄構工業会との交流会「溶接体験」（7月）
- ⑦佐賀県立病院現場見学会「基礎免震」（12月）
- ⑧適合性判定員として5名業務

今年は、意匠・構造事務所に限らず工務店の方々にも広く呼びかけ、伝統木造建築の移築現場見学会を開催する予定です。昨年につづき、現場見学会等を開催して構造設計への興味を持つ方を増やしていければと考えております。

長崎地区会



長崎地区会幹事

堅 設計 陣川 好高

あけましておめでとうございます。

今年から長崎地区会幹事を担当します。

長崎地区は JSCA 設立の前から諸先輩の方々が構造協会の組織を作り大学の先生方も含めて研修会や研修旅行をおこなってきた歴史があります。

その基本方針を引継いで、JSCA 会員以外の構造設計者と一緒に研修しようと準会員制度を作り活動しています。今まで運営は私と同年代(50代)が中心でおこなって来ましたが、今回の地区役員改正で次世代を担う40代の方数名に地区役員として運営に参加していただきました。

そしてもっと若い世代が気楽に参加できる環境を整えていきたいと考えています。

幸い今年の6月末に第3回の構造展を開催すべく動きだしており、若い技術者から学生まで含めて、賑やかに準備を進めて行きたいと考えています。

展示会の案内は改めておこないますので是非、各地区会員の方々にも参加いただきたいと思っています。

熊本地区会



熊本地区会幹事

(株)岩永組 赤星 靖

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、3月11日の東北地方太平洋沖地震により、自然の力に人類がいかにも無力かをあらためて思い知らされた1年でした。また、建屋の耐震強度には直接的には関係なかったかと思いますが、原発による重大事故が起きたことによる日本の原発安全神話の崩壊は、エネルギー政策を根本から考え直す契機となりました。被災された方、いまだに避難生活を強いられておられる方には心よりお見舞い申し上げます。

さて、時を同じくして3月12日、九州新幹線が全通しました。熊本駅周辺の整備はまだですが、少なくとも博多、鹿児島はより身近な都市となりました。大阪都構想の動向も気になるところですが、地方自治法等の法律の整備が進めば、九州圏での都市連携にも少なからずやよい影響があると期待しております。

前段が長くなりましたが、昨年、役員の変更により微力ながら地区幹事の任を受け、正式に引継ぎできましたのが夏、何もしてないのに1期が終わろうとしています。

建築の安全性に対する意識が高まっている中、できれば、学生さんや若い技術者にお手伝い頂いて、一般の方向けの参加型のイベントを企画してはと考えております。熊本のくまモンがグランプリに輝いた、「ゆるキャラグランプリ2011」、御当地メニューにスポットライトを当てた「B-1グランプリ in 姫路」、身近なところでは、某社が企画しました若手建築士による投票型コンペ「九州建築家バトル 2011」など、話題性があり、遊び心に富んだイベントが各地で開催されています。熊本でも何かネタがないか思案しているところでもあります。何かよいアイデアがあればお知らせ頂ければと存じます。

では、本年もよろしくお願ひします。

大分地区会



大分地区会幹事

(株)日構設計 高橋 正夫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は3月に発生した東日本大震災により、私たちの想像を遙かに超える地震災害に直面した年でありました。衣・食・住の一端を担う建物の設計に携わる私たちにとって、地震の脅威を思い知らされる出来事だったと思います。改めて震災にあわれた皆様方に心より御見舞い申し上げます。

さて、リーマンショック以降続く景気後退の改善もないまま、追い討ちをかけるようなヨーロッパ諸国のユーロ不安など、我々の生活を取り巻く景気は一向に改善の兆しが見えてきません。このような中でも私たちは人々が安心して生活できる建物の耐震設計を行ない、建物の耐震安全性を確保する専門家として技術を研鑽に努力することが必要と考えます。

今後とも、若手構造技術者の育成を行なうとともに、JSCA 会員の相互連携を深め、迎えた新しい年が我々にとって素晴らしい一年になる事を心から祈念申し上げます。

宮崎地区会



宮崎地区会幹事

大塚建築設計事務所 大塚 節生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災が発生し各地に甚大な被害をあたえました。被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

宮崎地区会の幹事となり1年になろうとしていますが、幹事らしい仕事は思う様にならず、地区会員の皆様には大変申し訳なく思っております。今年は何れに役を立てる様に努力してまいります。宮崎では建築業界をとりまく状況は景気の落ち込みに伴い、民間企業の設備投資の手控え、住宅の過剰供給等により新築物件は減少しています。公共施設の耐震診断、補強が一部を除き一段落しました。今後は震災による地震や津波の甚大な被害により、一般の方々の耐震性能への意識が高まり、民間施設の耐震診断、補強が強く求められるものと考えます。行政は避難場所の確保の為、公共施設の屋上への直通階段設置及び避難塔等の建設を進め、震災での教訓を基に各地でその対策がとられるものと思います。構造技術者として培った経験や技術を少しでも設計に活かせる様、会員皆様のご協力を得て努力していきたいと思っております。

JSCA宮崎地区会として今年は講習会、見学会を通じて技術者としての資質の向上を図り、会員相互の交流を図るべくゴルフ、飲み会等を計画し会員との連携を密にして活発な宮崎会にしていきたいと考えています。

今年は皆様にとって明るく未来ある一年になりますように願っています。

鹿児島地区会



鹿児島地区会幹事

(有)鹿建設 木場 正人

新年、あけましておめでとうございます。昨年は、想定外の大震災や豪雨に見舞われ、政権まで揺さぶるような大変な年となりました。本年は2012年問題を抱え、世の中が大きく変わりつつあるようです。世の中の変化に何ら影響はありませんが、JSCA 鹿児島は、4月に幹事改選を行います。

平成23年3月12日は、九州新幹線全線開業で、福岡と鹿児島中央間は最速1時間19分、新大阪と鹿児島中央間は3時間47分で繋がり、移動時間が半分に縮まりました。

頭脳労働は人間の専有分野でしたが、今日、人口知能が分担する時代になり、人手がどんどん不要となる時代になってきました。

ITにより社会基盤が変化しつつあるなか、建築構造を取り巻く状況も、変わりつつあります。効率が上がり便利になった分、皆が余裕をもてるはずですが、労働時間と労働感覚は何も変わっていません。

本年、鹿児島地区会は、少し余裕をもち会員相互の絆を深め、社会貢献を考慮しながら、若い人の会員拡大および技術力の向上を大きな柱として活動してまいります。

沖縄地区会



沖縄地区会幹事

(株)国建 花城 和雄

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は東北地方を襲った大地震に翻弄された1年でした。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の地震・津波被害の映像に衝撃を受けると同時に、それは建築技術の非力さを見せつけられるものでした。日本は世界に誇る耐震技術を有していますが、“想定”の枠を超えた自然力の前には成す術も有りませんでした。日頃、建物の安全確保に使命感を抱き設計活動をしていますが、それは想定された自然力に対してであることを今一度意識する必要があります。

さて、沖縄地区会ですが、昨年はパネルディスカッションの開催、400人を集客した講演会の開催、その他、多くの活動ができた一年でした。まさにホップステップ&ジャンプの兔の勢いでした。今年は辰年、“昇り龍”となるよう頑張っていく所存です。

本年の活動予定は、第一回JSCA九州役員会の開催地区になっておりますので、準備万端整え皆様をお迎えしたいと思います。

JSCA 金箱会長との懇談会

昨年の10月6日に金箱会長が来福され、20数名の支部会員との懇談会が開催されました。会長のお話の主旨は、構造設計者の職能の確立に向けてJSCAは何ができるのか、会員にはそれぞれの立場で何を行ってほしいのかなどについての話がありました。また、会長としての活動方針を3つのテーマを掲げられました。一つ目は、大震災を踏まえた建築物の耐震安全性確保の推進であり、復興への協力。二つ目は、構造設計者と社会との関りを密にすること。そして三つ目は、構造設計者の活力を高め、若者が憧れる職能を確立したいこと。この時期だからこそ、構造設計の創造性や重要性を再認識しようと言われました。そして、なるべく全国の会員と会って、特に若い人たちと話してみたいと。会長としてどんなことを考えているのか、また若い人たちがどう考えているのかを直に聞きたいとのことでした。



(金箱会長)



(金箱会長を囲んで)

懇談会には、青年部会、なでしこ会からも出席いただきました。出席されたJSCA九州支部の「なでしこ会」のメンバーより感想が寄せられましたので報告します。

懇談会の感想 : なでしこ会

☆松尾 佳代

建築雑誌等で名前をみていた金箱会長はすごい方で、私たちと笑って話せるとは思っていませんでした。今回お会いし、ほんの少しでしたが話をする事ができて本当に得したなと思います。いつもの会合と少し違って皆が考えていること、思っている事などを聞くことができ参加して良かったと思いました。

これから設計していく上で迷ったりした時に、金箱会長が言われた言葉を思い出して、もう一度考えて設計を進めていこうと思います。それは『自分の母親の家だったらどうするか?』を考えて設計するように所員に話しています。』(こんなニュアンスだったと思います。)ということでした。

☆加藤 千佳

金箱会長の提言された活動の基本方針について、会長から直接意見を求められたときに、私は言葉に詰まってしまいました。

それは、会長の仰ったことがあまりにも私の中にそのまま入ってきて全く疑問や意見が浮かばなかったからです。

では、なぜ納得なのか？と考えていくと、JSCA九州として取り組んでいる活動の一つ一つが既に会長が目指している方向を向いていたからだ気づきました。

私は『JSCA九州なでしこ会』として活動しています。

震災、社会、若者に向けて積極的に関わりを持つという事について会長やJSCA本部が取り組んでおられるようなダイナミックかつ最先端での取り組み方はできていませんが、なでしこ会では毎月の定例会の中で、会員が震災関係の仕事を通して学んだことについて情報共有を行ないました。

今後は、個人レベルでの情報発信力を高めるために「私+仕事」をテーマに発表会を持つ事にしています。

小さい歩みではありますがJSCA本部と同じベクトルを向いて進んでいる事を実感することが出来ました。

私が「若者が憧れる職能の確立」と言われて考えるのは、今の構造設計業界はみんなにとって働きやすい環境なのか？という事です。

構造設計という高い技術を要しかつデザイン的な発想も要求される高度な知的生産の世界では、睡眠や余暇の時間を削って過酷な仕事をされている方が少なくありません。

社会に対して責任ある仕事をし、かつ競争社会で生き残っていくためには、仕方がない事だし、当たり前だ。と皆さんが思っています。

しかし、その働きに対して社会から十分な評価を受けているのでしょうか。

そういう生活を見て若者や女性が「私もなりたい。」と憧れを抱くのでしょうか。

現状では女性が家庭や育児と両立して構造設計をしていく事は本当に難しい事だと思っています。

では、できる男性だけが生き残ってやっていけば良い事なのでしょうか？

こういう現実も含めて社会に対して発信をし、構造設計者の存在と現実を認知してもらうことが必要だと考えます。

そして、いつか医者や弁護士と変わらないくらいの地位を確立してみんなが豊かで創造的な環境になればと願っています。

☆赤司 久美子

今回の懇親会では、同じ設計者が普段感じていること、疑問に思っていることなどの様々な意見を聞き、討議出来た貴重な会でした。

現状、今後、置かれている立場、設計者とは、設計とは、目標、要望など、思いのたけを少々乱暴に任せたとこもあった若手の率直な意見を、金箱会長は一つ一つを真摯に受け止め、それに対して自分の意見、取掛りとなるようなヒント、経験談を話して頂いたり、会長の言葉に熱意と優しさ、信頼性が感じられ、経験から語られる言葉の重みに感銘を受けました。

法律に縛られ審査を通すことだけに目が向き、閉鎖的になりがちな現状に、思うように行かないジレンマを感じるだけでなく、その時のベストを提供出来るよう、魅力あるものを創って残していけるよう、説得・信頼してもらえるだけの力をもっとつけるため、経験を積み、学び、努力していきたいと思いました。

現状に満足し、与えられた仕事をこなし、何となく日々を過ごすのではなく、いつでも何かに挑戦しようとする精神が必要であることを改めて感じました

☆浅田 正子

金箱会長が就任された時の巻頭言を読み、活動方針として、『構造の仕事を若者が憧れる職能として確立すること』という記事に、自分がその仕事をするだけでなく、その仕事を発展させる責任もあるのだと、思ったものでした。

今回の懇談会では、そのお言葉を直に伺い、背筋が伸びるのを感じました。

日々の目の前にある仕事をするだけでなく、希望を持って学びながら構造に取り組むことをもっと前向きにやっていきたいと思いました。

そしてまわりの皆さんへも、自分が得たものを伝えていけたらいいな、と思っています。そのようなことも仲間がいてこそできること、私たちはなでしこ会を含め JSCA でつながる先輩方や仲間がいますが、九州支部に限らず、他支部の女性達とも交流できればと思っています。

☆中谷 智子

JSCA 会長と九州支部の親睦会にあたり、九州の（精鋭？）若手 10 人が、文字通り金箱会長を囲み、日常の設計業務にあたる上で思うことや、JSCA への要望などを、思い思いに話をさせていただきました。

「構造設計者の施主への説明義務」や、「構造設計者が情報発信力を高めること」は、大きな震災を経験する度に言われてきたことであり、JSCA の取り組むべき課題の一つとしても挙げられています。

その一方で、これまでそのような説明機会もなくやってきた若手設計者にとって、自分の財産に不安を抱えた施主からの疑問・質問に対し、相手が納得できるような回答が出来るのか、また、これから先どうすれば出来るようになるのか、常々疑問に思うところでした。

今回、若手からの色々な投げかけに対し、いつも相手の話しを最後まで聞いた上で、常に的確でわかりやすい言葉で回答される会長の姿に、ヒントと希望を得られたような気がします。

ご多忙の中、このような貴重な機会を設けていただき、金箱会長と九州支部に心から御礼申し上げます。



*本部ホームページに金箱会長の挨拶「2012 年を迎えて」がアップされていますので、覗いてみてください。

各地区会だより

今号より、各地区の会員の皆さんに投稿していただくことにしました。リレー方式で毎号続けていきたいと思っています。今回は5名の皆さんに書いていただきました。指名された方は次号にご執筆願います。

チャレンジ富士登山



熊本地区会

(有)かいしん設計室 甲斐 信親

みなさんは、富士山に登ったことありますか。富士山は日本で一番高い山です。しかし一般の人でも夏の期間であれば頂上まで登れる山として特に最近では登山者が増えているようです。

ということで、日ごろ構造設計に没頭し、パソコンの前に一日中座る日々を送り、ほとんど運動らしい運動をしていない（夜たまに30分程度の散歩をする程度です）私は、自分の体力がどの程度なのか確認の意味と、ちょうど半世紀生きたということで50歳の記念に富士登山を決意し、一昨年の平成22年8月決行することになりました。

富士山には過去1度21歳の時に登ったことがあるので、どうにかなるかなという安易な気持ちでした。同伴者は19歳の息子1人で私と2人でのチャレンジです。予定としては千葉での仕事の予定があったので、熊本から高速を使い自家用車で千葉に向かい数日の仕事を終え山梨の河口湖側の富士スバルラインを使い5合目まで車で行き、そこから徒歩で富士頂上を目指すという計画です。

5合目に到着したのが午後8時くらいだったと思います。幸い着いた時間がよく登山口近くに駐車することが出来ました。時間次第ではスカイライン途中の駐車場に止めバスで送迎だそうです。

さてここから登山開始です予定としては日の出を頂上で見たいので5時までには頂上につければという感じでした。午後10時深夜真っ暗な中登山を開始しました。最初は平坦で楽勝という感じで歩き始めました。しばらく歩いて行くとだんだん急な斜面に変わり岩がゴロゴロした階段状に変わりました。7合目くらいまではどうにか順調に登ることが出来ました。しかし7合目くらいから少しずつつきつなくなってきました。なかなか足があがらなくなり、少し歩いでは小休憩でスローなペースとなりました。息子からは遅いので余計に疲れると愚痴が聞かれ始めました。そこで8合目で長めに休憩することにし、一時仮眠を取ることにしました。1時間くらいの仮眠のあとまた登山を開始しました。上を見ると登山者のライトが光の帯になっていました。同様に下方を眺めると、こちらにも光の帯が続いていました。真夜中なのに相当数の人が上へ上へと頂上を目指す姿は壮観でした。仮眠を取ったこともあり8合目で3時を廻ってしまい5時までには頂上到着は厳しい状況でした。ここからは息子には先に行ってもらうことにし私はゆっくり頂上を目指すことにしました。ということで、頂上で見る予定が9合目での日の出になってしまいました。しかし、やはり富士山で見る日の出はすばらしいものでした。「バンザイ」という感じで一人朝日を見つめていました。

ここで登山途中のちょっとしたことですが、とても大切なことトイレの話ですが、当然山だからと言って何処でもはできません各小屋に有料トイレがあり、定期的の下まで運んで処理しているのです。下界ではたいしたことでないことがここでは大変なのです。品物もすべて運び上げなくてはけません、カップヌードルが1個600円です。いつもの便利な生活が夢のようで、大変ありがたく感じられました。

ようやく9合目に到着頂上はあと少しだという所で、なんと渋滞してなかなか動かなくなりました。こんな場所で少しづつしか進めないのです。ところが、最悪のタイミングで小がしたくなってしまいました。9合目から頂上まで約三十分かけ少しづつ進み、ようやく頂上に着いたのが朝の7時くらいだったでしょうかそこから山頂のトイレに直行しましたが、またまたここでも並ばないといけなかったので大変でした。

しかし頂上に到着した時の感激は最高でした。ようやく頂上に着いた達成感と、まだまだやれるという感じと同時に体力的に多分もうここに立つことは出来ないだろうなという少し寂しい思いとか色んな思いが駆け巡りました。結局山頂には3~4時間くらい、仮眠したりして滞在しました。息子はその間の時間を利用して山頂を一周してきたみたいです。山頂の火口は結構な広さがあり火口周囲を一周するのも一苦労みたいだったので私は休憩のため仮眠をとることにしました。

山頂での休憩後下山です。下山は登りとは別ルートで比較的なだらかなスロープ状の道を下ります。結構関節への衝撃が大きく終盤はとても辛い思いでしたが時間的には下山は登りの半分ぐらいの時間で5合目まで到着することが出来ました。

以上私の「チャレンジ富士登山」でした。しかし結構辛く途中での下山も考えましたが頂上までどうにか到達できました。下山後、麓の温泉センターで休憩仮眠し、高速で熊本まで息子と交代で運転して帰宅しました。久しぶりに結構なむちゃをしたなという感じはありましたが、息子とも結構話が出来たりして大変満足できる旅でした。



素敵な週末の過ごし方



沖縄地区会

パス建築研究室 新川 清則

最近家族の予定がバラバラでなかなか遠出が出来ませんが、お勧めのドライブコースを紹介します。まず、沖縄自動車道で名護の許田インターまで行き、一路本部(もとぶ)へ。向かうのは海洋博記念公園。観光客ならばジンベイザメで有名な美ら海(ちゅらうみ)水族館へ行くところですが、既に何度も行っているのでパス。公園の一番手前のゲートから亜熱帯植物園へ。ここで植物観賞をするわけではありません。管理事務所フロントでスティックとボールを借り、広々とした庭園でグランドゴルフを楽しみます。料金なんと無料。夏は日射しが強いので時期は11~4月くらいがお勧めです。

次に昼飯ですが、本部には漁港があり海の幸が豊富で、おいしい店がたくさんあるので探検気分ですいろいろな店を試してみるのがいいでしょう。昔スタイルの沖縄そばが売りの「きしもと食堂」は有名です。その近くには「新垣ぜんざい屋」があり、デザートにお勧めです。食後の散歩にうってつけなのは、公園の近くにある備瀬(びせ)の集落です。防風林のフクギに囲まれた街並を散歩していると、時間が経つのも忘れてしまいそうです。沖合には左右対称のシルエットが美しい伊江島が見えます。散歩と昼寝が終わると名護の道の駅へ。ここでは買い物です。有名なのは乙羽(おっぱ)アイスクリーム。なかなかおいしい。私が良く買うのはシークォーターというみかんです。魚や肉に果汁をかけるのとくさみがとれておいしくなります。ここで、さしみや、から揚げでも買っておけば夕食のおかずに困りません。

さてここからが私にとって本番です。嫁と息子には先に帰ってもらい、車に積んであった折り畳み自転車を組み立てます。タイヤは20インチと小さいですが、7段変速の本格派?の愛車で自宅のある那覇まで約60キロの道のりをひたすら走る。まじめに走れば4時間で到着。心地よい疲れと共に味わうオリオンビールがうまい。次号は私以上に人生をエンジョイしている水野和男さんです。



職場仲間とはじめたスポーツ



長崎地区会

㈱PAL構造 久松 好己

近頃、世の中はジョギングブームで、朝も昼も夜もジョギングしている人を見かける。中には夜の12時頃走っている人さえいる。実は私も時々走ることがある。5年前に取引先の大手企業の所内駅伝大会に誘われて、会社でチームを結成し、出場したのがきっかけである。チームは速い人、即ち若い人中心なので、私が本番で走ることはないが、9月末から本番のある1月まで、2週間に1度の取引先主催の合同練習でみんなと一緒に走っている。5年前に初めて練習に参加した時は、いきなり10km走の練習で足を痛めて、次の日からビッコを引く始末で、大学を卒業して30年近く殆ど運動したこともなく、50歳過ぎた私にはかなりきつい練習であった。それでも合同練習でみんなに少しでも付いて走れるようになりたいという思いと、煙草をやめて腹も出始めていたので、メタボ対策も兼ねて、早朝や夜に一人運動公園で練習したこともあった。ストップウォッチ付きの腕時計を買って記録を付けたりなどもしたが、たいして速くはならず、毎日続けて走って却って足を痛めたこともあった。一度は合同練習で10km走のあとに100mダッシュ5本の練習に参加して膝を痛めて整形外科通いになってしまった。今シーズンは2週間に1度の合同練習だけに参加し、走る距離も4、5km程度で安定して走れるので丁度いいくらいだ。

約3か月半の合同練習、本番、そしてその間に行われる決起集会、打ち上げなどの飲み会ではみんなと盛り上がり、初めての人たちとも顔見知りになり親睦を深めることができていく。本番直前の1月になると、社内でもチームの士気を高めるために練習、飲み会を行うので、職場の一体感ができて雰囲気はよくなったと感じる。

ちなみに駅伝大会のこれまでの成績は、5年前が196チーム中145位で昨年が266チーム中62位へと毎年右肩上がりに躍進している。今年も1月22日の本番の日が迫ってきており、どれだけ上位にいけるかが楽しみである。

駅伝の練習、大会出場を経験して、職場の仲間とスポーツをやろうという雰囲気ができて、昨年からは学生時代に経験のある人を中心にバスケットボールを始めている。練習は2週間に1度市内の中学校の体育館を借りて試合形式の練習を行っている。私も練習に参加しているが、足を痛めたり、突き指をしたり、ジョギングよりもひどい目に合いながら楽しんでいる。みんなでやれば楽しいので、一人でも、あるいは対戦チームとしてでも、バスケットをやりたい方がいらっしゃったらご連絡ください。一緒にやりましょう。



父親の会



大分地区会

K2 構造設計 河野 浩二

私が所属しているO T Cという会についてご紹介致します。O T CはOomichi・Triangle・Clubの略です。O T Cとは学校・家庭・地域を結ぶトライアングルとして、小学校P T A会員を中心とした、いわゆる「父親の会」です。父親の積極的な子育て参加を進めて、その活動の場を家庭から地域へ広げることにより、家庭はもとより地域の教育の向上を図り、青少年の健全育成に資するためにと全国的にも「父親の会」が広がりを見せています。O T Cも普段仕事で子供と接する機会の少ない父親達が、子供達に何か出来ないかと考えて立ち上がった会であり、毎年数回イベントを行っています。発足して今年で12年目になりますが、会員数は約30名でO B会員もいます。子供を喜ばせる事と体を動かした後おいしいビールを飲む事が楽しみな父親ばかりです。主な活動としては夏の校内キャンプ、冬の餅つき大会があります。特に夏の校内キャンプはもはや小学校の恒例行事となっており毎年大勢の子供達が参加する一大イベントです。毎回どうやって子供達を喜ばせようか、びっくりさせようかと父親達は事前に何度も集まって打合せと称した飲み会をしながら計画を練っています。今年も楽しい校内キャンプになるようにと、春ぐらいから準備が始まります。忙しい仕事の合間を縫っての準備も皆で子達の笑顔を想像しながら行うのでとても楽しい時間です。また、月に2回は小学校の体育館でいミニバレーで汗を流し日頃の運動不足を解消しています。時には別の学校の「父親の会」とも練習試合を行います。そんな時日頃の運動不足の事などすっかり忘れついムキになり思わず熱くなってしまう。(翌日体が大変な事になってはいますが。)このように年間を通じて色々活動を行っていますがO T Cは会員になったら全ての行事に強制参加ではありません。「出来る人が出来る時に出来る範囲で協力する」をモットーに皆で協力しあって活動しています。そんな意味ではJ S C Aに通じることがあると思います。出張が多いお父さん、単身赴任中のお父さん、転勤が多くあと何年この地域にいるかわからないけどいる間は活動しようというお父さん、といった具合に色々な事情があるお父さん達の集まりです。あるお父さんからは、「O T Cは100%ボランティアにもかかわらず、とても大きな報酬が得られる。それは子供達の笑顔である」という話を聞いたことがあります。その言葉からは、自分の子供だけでなく、全ての子供達にわが子のような関わりを持ち、そして、育てていくということを強く感じる事が出来ました。今後も子供達と一緒に楽しい思い出を作りたいと思います。



目標「10,000冊」読破



宮崎地区会

(有)森本設計 森本 啓喜

年末に HP 委員会より、JSCA機関紙の「友達の手」を発行するので原稿の依頼があったのだが、さて何を書いているものやら・・・。

齢い、重ねて 60 余年これと言った特技・趣味はない。ゴルフも腰を痛めてからやめ、運動もせずただ仕事一筋？ではないはずと思い、考えてミタ。

数年前から晩酌をやめた。年に数回街に出かけるが、めっきり酒の量が減り家内は大喜びだ。仕事が終わり家で食事を取ったあとは、自室のベッドの潜り込み、読書三昧にふける。若い時に都会で仕事していた時は電車通勤が 1 時間ぐらいあったので約 1 年ほどかけて山岡荘八著「徳川家康」全 36 巻を電車のなかで読んだためか NHK の大河ドラマにでてくる戦国武将の相関関係はある程度理解できる。

最近気に入っている作家は、石田衣良・浅田次郎・東野圭吾などである。

浅田次郎氏の経歴には驚く。旧士族の家庭に生まれ小学校時代に家業が破産。高校卒業後陸上自衛隊に入隊、企業舎弟と呼ばれる暴力団の準構成員（暴力団の構成員ではない）競馬で生活していた時代もあり、洋服販売会社の社長などを経て、1990 年に作家デビューをする。その後吉川英治文学新人賞、1997 年「ぼっぼや」で直木賞・2006 年司馬遼太郎賞・2008 年に吉川英治文学賞、など数々の受賞・映画化・ドラマ化された優れた文学を世に出されている。

また、石田衣良氏は本名が石平庄一さんで苗字がそのままペンネームになっている。直木賞と言えば、石田衣良氏がノミネート 3 回目、東野圭吾氏が 6 回目でそれぞれ受賞されているが、作家協会もなかなか厳しいものと思われどの業界でも同じように苦労があることがうかがえる。

作家という職業についてはなにも知らないが、ありとあらゆるジャンルに精通しており政治・経済・歴史・推理物・ノンフィクション物など同じ作家が 1 年に数冊の本を執筆される。その内容の実に的確であり歴史を忠実にかつリアルに表現されていることは驚嘆の値する。やはり、餅屋は餅屋でプロになるとそれなりの資料収集方法があるのだろうと感心させられる。

最近電子書籍などで本を購入する人が多くなってきているようだが、私は手元に置いておきたいほうなので電子書籍にはあまり興味がない。本の購入は、最近郊外に多くなった「book なんとか」などの中古本が最適である。中古本といっても 2 年から 3 年まえのものが 105 円で売っていて、書店の 1/5 ぐらいの値段で手に入る上、本の小口などはきれいに研磨してあるので新書と見がまうぐらいである。1000 円もあれば 1 ヶ月ぐらいは夜長を楽しめる非常に経済的で知的な趣味と思われるがいかがかな？。ただし、面白い本は途中でなかなか止められないため、つつい夜更しをするのでご注意を・・・。

人生 50 年といわれていたのは、戦前までで日本人男性の平均余命を調べてみると、1960 年が 65.3 歳、1980 年が 73.4 歳、2000 年が 77.0 歳、2010 年が 79.6 歳で今年は 80 歳を超えている。まあ、自分が死ぬまでにあと 20 年ぐらいはあるとすると、240 ヶ月、リタイヤすれば暇人となり月平均 15 冊読破すれば 3600 冊か書棚がようやく埋まり、目標の蔵書 10,000 冊になるかなと思う年頭の抱負だった。

2012年福岡建築倶楽部新年の集い

平成24年1月20日(金)に福岡地区建築設関連7団体で共催する毎年恒例の建築倶楽部新年の集いがKKRホテル博多にて開催されました。今年も246名の会員が集い、盛り上がりしました。幹事である日本建築家協会九州支部福岡会の角銅会長の挨拶に始まり、日本建築積算協会の樋口支部長の発声で乾杯を行い、和やかな歓談が続きました。例年どおり正会員及び賛助会員共、JSCAの出席者が一番多く組織の団結力を示すことが出来、盛会裏に終えることができました。

出席された皆様疲れ様でした！！



福岡建築倶楽部

(社)日本建築構造事務所協会九州支部

(社)日本建築学会九州支部福岡支所

(社)日本建築家協会九州支部福岡会

(社)日本建築積算協会九州支部

(社)日本設備設計事務所協会福岡県支部

(社)福岡建築士事務所協会福岡支部

(社)福岡県建築士会福岡支部

編集後記

- 執筆者の皆様には、大変忙しい中、ご執筆いただきましてありがとうございます。
- 20号メール版を発行いたします。今号より、紙面を通して交流の場をひろげていくことを方針に紙面を充実したものにしていきたいと思っています。前号でお知らせしたように、各地区会の特派員に任命された地区会事務局の方々より、色々な話題が届いております。ご一読ください。また、みなさまも、ぜひ投稿くださることを期待しております。
- 日がたつのは早いもので、この機関紙の編集に2000年発行の第6号より携わり、早12年がすぎました。それにしては発行数が少ないと感じておりますし、内容も一新したほうがよいと思っています。編集に興味のある方、我こそは編集長になりたいと思われる方、ご一報ください。皆様に期待される機関紙を作りましょう。
- 機関紙「JSCA九州」は支部会員、賛助会員の皆様のご協力がなければ、編集担当だけでは発行できません。年4回の発行をめざしたいと思っていますので、よろしく願います。

☆☆(森田 記)